

園部落立藩400年 A to Z

発行日 令和元年10月20日(生身天満宮秋季大祭の日)

表紙絵図 河原信之

題字 小林康夫

写真 小林康夫

文書 小畠 寛  
小林康夫  
上野榮二  
浅田徹雄

監修 森 茂樹  
上野榮二  
河原信之

発行 南丹市歴史探勝会  
会長 小畠 寛  
京都府南丹市園部町大西西代1番地  
TEL 0771-62-1286

協力 塩見直紀  
(半農半X研究所 福知山公立大学・総務省地域力創造アドバイザー)  
丹波史談会 会長 上野榮二

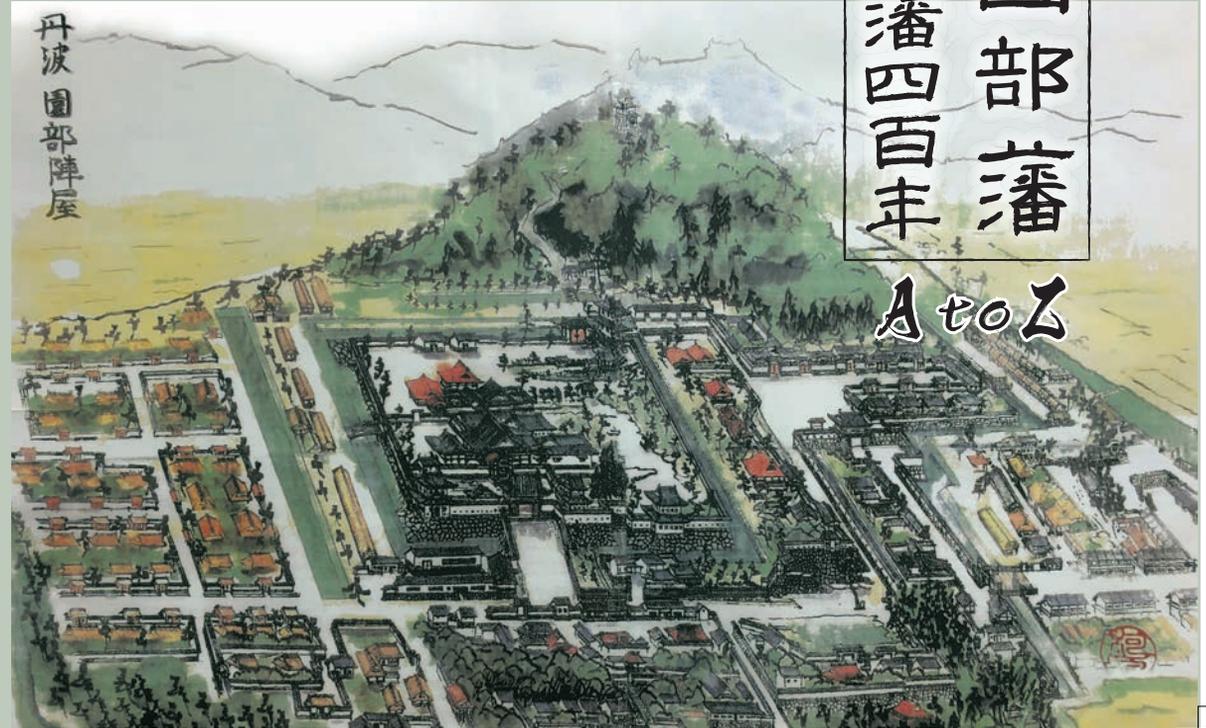
参考文献 園部町史通史編「図説・園部の歴史」  
(発行 園部町・園部町教育委員会)  
園部落のあゆみ(発行 南丹市立文化博物館)  
園部探訪(発行 小出吉親公顕彰会)

販売価格 100円

KYOTO NANTAN SONOBE

立藩四百年  
園部藩

A to Z



message

## 園部藩立藩400年

小出吉親が出石藩から転封により初代園部藩主となったのが元和5年(1619)であり、令和元年(2019)が丁度園部藩立藩400年となります。これに関連して、行政や商工会その他団体により、いろいろのイベントが計画され、行われています。

ここで私たち南丹市歴史探勝会は、園部藩立藩以来400年を振り返り、掘り下げて、園部藩の魅力、名所、旧跡を分かりやすくAからZに纏めてみました。

これを機に園部藩を引き継いでいる南丹市という町をもっと理解し、愛し、他地区の皆さんにもその魅力をしっかりと自信をもって伝えてゆき、この方々からも連鎖的に広げてもらい、それぞれがこの町に度々足を運んでもらいたいものです。

またこれらの方々がこの町に魅力を感じ、Iターン、Uターンの形で移住を考えてもらえる一助になれば幸いで、我々自身が逆にそうなるような魅力ある町にしてゆきたいものです。

南丹市歴史探勝会 会長 小島 寛

園部藩立藩400年まことにおめでとうございます。これに合わせて、『A to Z』を発刊されること、関係者として誠に喜ばしく、全国に園部藩が知られることになればと期待しております。また南丹市に住む方々が、園部藩の歴史を知り、理解し、誇りを持って暮らして戴けるよう願っております。

園部藩小出家 第14代 小出英典

園部藩立藩400年早わかり『A to Z』の発刊おめでとうございます。当市もこの立藩400年を何とか盛り上げようと種々の行事を計画しております。この冊子が南丹市歴史探勝会という市民団体の手によって作成されたこと、大変嬉しく思います。市民の手による活動により、園部藩立藩400年が市民の誇りとなり、南丹市のPRに大きく寄与してくれることを期待しております。

南丹市長 西村良平

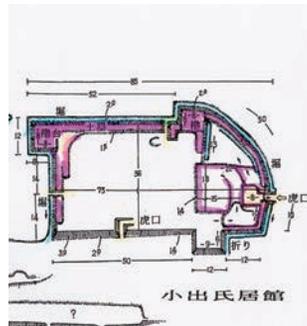
今般、本年が園部藩立藩400年に当り、これに併せて、『A to Z』が刊行されますことに、大いなる意義を感じ、私共丹波史談会としても全力を挙げて協力し、応援を惜しまないところであります。この冊子の刊行が園部藩、ひいては南丹市について全国に知らしめる一助となることを期待するものであります。

丹波史談会会長 上野榮二

## contents

- Akechi Mitsuhide  
**A** 明智光秀
- Bansho  
**B** 番所
- Castle  
**C** 園部城(園部陣屋)
- Daigaku  
**D** 学習院
- Economy  
**E** 園部落の経済
- Fukuromachi  
**F** フクロ町
- Gobyousho  
**G** 御廟所(歴代藩主の廟所)
- Hankou  
**H** 藩校
- Ikimitemanguu  
**I** 生身天満宮(日本最古の天満宮)
- Jyokamachi  
**J** 城下町
- Koideshi  
**K** 小出氏
- Last Castle  
**L** 日本で最後の城(園部城)
- Miyamachi  
**M** 宮町
- Nanyouji  
**N** 南陽寺
- Ookikannon  
**O** 大樹観音(園部藩西の鬼門)
- People  
**P** 領民
- Question  
**Q** 何故、小出氏が10代続いた？
- Ryouonji  
**R** 龍穩寺(小出藩主の国家老太田氏の菩提寺)
- Shishiudojyo  
**S** 穴人城(園部陣屋までの仮住まい)
- Tokuunji  
**T** 徳雲寺(小出家の菩提寺)
- Ujyo  
**U** 運上(園部川舟運の積出地)
- Victory  
**V** 関ヶ原合戦勝ち組
- Woman  
**W** 小出公の国元正室の墓
- Xtian  
**X** キリシタン禁止
- Koide Yoshichika  
**Y** 小出吉親
- Zensyu Jiin  
**Z** 禅宗寺院

3



明智光秀の丹波攻略に当たって、当時の園部には敵対する有力な国人はなかったが、攻略に率先して協力した小島一族が、小出氏園部入部に当たって、重要な役割を果たしました。その後、その功により園部落に出仕しました。また穴人城に「小出仮館跡」が手つかずで残っているのも興味深いです。

**A** 明智光秀  
Akechi Mitsuhide  
小島 寛

4



園部城下町の出入りを監視する為に西端(上本町)、東端(新町)に番所を設けました。番所は通行人や荷物などの検査や徴税を行いました。これ以外に主要なところに寺院を配置、防御的な役割を果たさせていました。(徳雲寺、南陽寺、教伝寺、妙光寺、宝福寺、浄教寺)

**B** 番所  
Bansho  
浅田徹雄



園部城は元和5年(1619)の園部落成立後、初代藩主小出吉親が小麦山周辺に築城を開始し、2年後に完成しました。この時に櫓は江戸幕府の許可が得られず、城ではなく陣屋の扱いになりましたが、南北約650m、東西約400m、二重堀や鉄砲狭間の塀がある城規模でした。

**C** 園部城  
Castle  
小林康夫



学習院大学の前身、学習院は明治10年(1877)東京に移るまで京都にありました。そこで儒学の講師を務めたのが、劉君鳳(石秋)であり、園部藩の藩校の教授と兼務して教えていました。西園寺公望などの公家も習ったといわれています。君鳳は小出氏に請われて藩校の教授となり、その書は南丹市立文化博物館等に所蔵されています。

## D 学習院 Daigaku

小島 寛



園部藩では苦しい財政状況を打破するため、煙草の専売制を宝暦2年(1752)から実施しました。その方法は藩内で生産された煙草は仲買人が生産者から買い上げ集荷し、京都藩邸(京都市下京区醒ヶ井通松原下る)に持ち込み、商人によってセリ売りがされてました。

## E 園部藩の経済 Economy

浅田徹雄

旧園部城大手門(北の門)の東北にフクロ町と呼ばれた一画があります。現在の裁判所前から宮町通りに至る一画ですが、そこには園部藩時代下級武士の住居が集まっていたようです。京都府で最初に陸軍大將になった田中弘太郎氏も一時ここに住み、その家は今も残っています。

## F フクロ町 Fukurumachi

小島 寛



園部歴代藩主のご廟所は、園部城から南方1km強の戸倉山山頂に有ります。土堀に囲まれた約50m四方の敷地は、当初小出吉親の隠居地でした。吉親公78歳の没後、中央に吉親の五輪塔が建てられ、それを囲むように二代目から九代目藩主の五輪塔が配置されています。

## G 御廟所 Gobyousho

小林康夫



当初は御用部屋に講堂と称する学問所がありました。享保14年(1729)より月3回講義を行ったのが始まりとされています。7代藩主小出英筠が、寛政7年(1795)馬杉陽谷、脇屋如亭、馬杉廉平、劉石秋、劉冷窓らを招き講義を続け、明治3年(1870)武術演習場や藩士の子弟に書道を教える手習場と合併して教先館となりました。

## H 藩校 Hankou

小島 寛

園部の地は菅原道真の地行所で、小麦山に道真の邸宅がありました。延喜元年(901)に道真が大宰府に流された時、小麦山に小祠をつくり道真の像を安置して生祠としました。延喜3年(903)に道真が亡くなり生祠を霊廟に改めました。その後園部城築城に伴い、天神山へ移設されました。日本最古の天満宮と言われています。

## I 生身天満宮 Ikimitemangu

小林康夫



## 〇 大樹観音

小林康夫

大樹観音堂は、山陰街道と篠山街道の分岐点の河原町にあり、園部藩西の鬼門に位置します。観音堂は、四代藩主小出英貞の妻(徳川家康の曾孫)が千手観音を本尊として建て、正面の大ケヤキから「大樹観音」と呼ばれています。その千手観音は現在教伝寺に保管されています。

## N 南陽寺

浅田徹雄

寺伝によりますと、元和元年(1615)、快天山間和尚によって開創されたとしていますが、「徳雲寺末寺帳」では、開創を元和7年(1621)としています。園部陣屋も同年に完成しており徳雲寺などとともに城下町の防御を担っていました。「その昔話」に登場する[かねつき堂]が園部古城図に見られます。この鐘撞堂は、現在お寺の境内にあり、梵鐘の音は、人々に安らぎを与えるといわれています。



## M 宮町

小畠寛

宮町は宮ノ前町、門前町を意味しています。小向山には、菅原道真存命中、武部源蔵が祀った小祠があり、日本最初の天満宮である生身天満宮の始まりであります。中世の頃からその門前町としての宮町の名が続いております。宮町には、生身天満宮の祭礼で巡行した祭屋台が残されております。



## し 日本で最後の城

小畠寛

園部城は日本で最後にできた最も新しい城です。立藩以来、何度も陣屋作りではなく、天守閣のある城の建築を願い出ましたが、石高不足その他の理由で許可が下りませんでした。明治政府になって、政情不安から天皇を迎えることを理由に許可され、明治2年(1870)築城され、ついに園部城となりました。



### 小出氏略系図



## K 小出氏

小畠寛

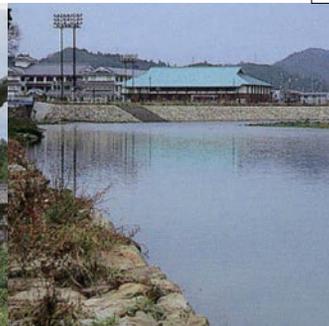
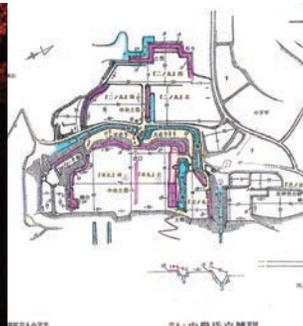
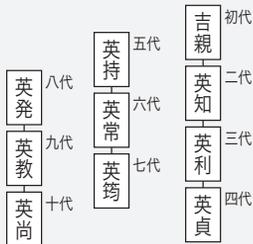
立藩以来400年続いた園部藩主小出氏は、信濃伊奈出身で、尾張に移り秀吉の縁戚となったことから大名となり、父秀政の岸和田藩、兄吉政の出石藩に続き、初代吉親が元和5年(1619)転封により園部藩の初代藩主となりました。岸和田藩、出石藩、陶器藩は、改易となりますが、園部藩小出家は明治まで続きました。

## J 城下町

浅田徹雄

初代藩主小出吉親は築城に際し、園部川を北に迂回をさせ、そのふところに城下町を作りました。規模は釘貫御門(宮町通りの南端)から新町柵方(新町東の入口)まで10町14間で宮町通に対してT字型東西に長い町並みとなっており町数6町(宮町、新町、本町、上本町、裏町、大村町)でした。





園部藩の知行地は丹波国船井郡・桑田郡・何鹿・上野国甘楽郡内に3万石を領し、江戸末期では、戸数8500軒強、人口26000人、その内武士団は2000人弱、他は百姓でした。主要な作物は米ですが、他の園部藩の産物としては煙草、菜種、野菜類などがあげられます。

## P 領民 People

浅田徹雄

なぜ園部小出藩は改易を受けずに江戸時代を通して10代続いたのか大いに疑問です。そこで歴代小出藩主の系図を見てみると、初代吉親から幕末10代英尚迄、一度だけ婿養子を長崎から迎えています。全て男子が継ぎ、全10代に小出氏の血が続いてきたからであって、徳川幕府体制下では稀有な例と言えます。

## Q 何故、小出氏が10代続いた？ Question 小出 寛

園部町仁江にある曹洞宗の別格地で、京丹波町市森の玉雲寺、小山東町の徳雲寺とともに三ウん寺の一つとされ、末寺38か寺を数えます。小出藩主の国家老太田氏の菩提寺であり、今でもその一族の墓所があります。近年は境内のみじの美しさがカメラ雑誌で紹介されたこともあり、秋には多数のカメラマンで賑わいます。

## R 龍徳寺 Ryononji

小出 寛

穴人城は、小島越前守正明の建てた小島氏の居城でした。園部藩初代藩主の小出吉親が、元和5年(1619)8月5日園部入部にあたって園部城築城までの2年間逗留しました。穴人公民館裏「小島氏館」隣の「小出氏館」は、51m×85mの館で400年後の現在も堀跡等が確認出来ます。

## S 穴人城 Shishindojiyo

小林康夫

徳雲寺は小山東にある曹洞宗の寺院で、元中2年(1385)に希曇和尚の開山。江戸期には園部藩小出家の菩提寺となりました。寺には狩野深幽の筆による「小出吉政」「小出吉親」等、歴代藩主とその夫人の肖像画、また吉親が出石から持ってきた「四隅にふくろうのある手水鉢」等が残されています。

## T 徳雲寺 Tokuninji

小林康夫

園部大橋付近の上流部周辺は「運上」と呼ばれ、園部川舟運の積出地であったとされています。小出吉親は運上から小山東三軒屋に向かって東流していた園部川を北方半月形に流路を変更させ、堅固な城下町を作り、堤を完成させました。この堤を吉親の号から「意閑堤」と呼びました。

## U 運上 Ujo

浅田徹雄



関ヶ原の合戦で、最終的に勝利したのは東軍徳川家康でした。兄吉政は西軍に属して戦い、父秀政は大阪在城で西軍でありましたが、弟秀家が名代として東軍に属し戦功をたてたので、小出氏は勝ち組になり、これにより大名として生き残ることができました。一族生き残りのため敵味方に分かれ戦うのが戦時侍の常であったようです。

▽ 関ヶ原合戦勝ち組 Victory 小島 寛

教伝寺墓地に小出公の園部の正室の墓2基があります。1基は3代小出英利の正室で井上中務少輔源正任の娘で名は不明です。もう1基は4代小出英貞の正室松平左京太夫頼純の末娘「八千」です。松平頼純は伊予西条藩の初代藩主で紀州藩主・徳川頼宣の三男で徳川家康は祖父です。小出英貞は江戸幕府奏者番、寺社奉行・西の丸若年寄など要職を務めました。

W 小出公の国元正室の墓 Woman 上野 榮二

天和2年(1682)3代藩主英利が、「キリシタン宗門御制禁故、バテレン訴人に銀500枚、イルマン訴人に銀300枚を与え、匿ったものや5人組、一類を厳しく罰する」とした高札が巽櫓に残っています。島原の乱(1637~38)鎮圧のため、小島太郎兵衛ほか5騎を派遣していることと、外様大名小出家の徳川幕府への気遣いが伺えます。

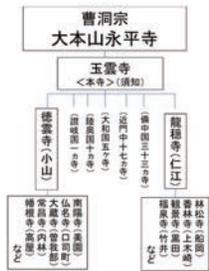
X キリシタン禁止 Xian 小島 寛

園部藩初代藩主の小出吉親は、天正18年(1590)小出吉政の次男として大阪で生まれました。慶長18年(1613)には出石城主、翌年大阪冬の陣では、徳川軍に従い軍功をたてました。その功により、元和5年(1619)園部藩を与えられ、以後寛文7年(1667)まで48年間藩主として藩の基礎を築きました。

Y 小出吉親 Koide Yoshichika 小林 康夫

園部藩内の仏教寺院では禅宗が多い。その中でも京に本山を持つ臨済宗よりも、永平寺、総持寺が本山の曹洞宗寺院が圧倒的に多く、これは一つは園部小出藩が入部以来民心掌握の手段の一つとして宗教を用いたことによるとも考えられます。真言宗や臨済宗の寺院が改宗されて曹洞宗となっているところも多いです。

Z 禅宗寺院 Zensyu jin 小島 寛



園部の歳時記

1月下旬  
半田大森神社祈年祭  
「ワードンドン」  
他社も同様神事

3月初旬  
熊崎都々古和氣神社大護摩

5月1日  
生身天満宮、摩氣神社春祭り

6月初旬  
摩氣神社お田植祭

6月6日  
生身天満宮、摩氣神社他  
夏越の大祓、茅の輪くぐり

7月18日  
口虫虫送り

8月19日  
摩氣神社湯立祭

10月15日  
生身天満宮秋祭、  
旧園部町内祭囃子

10月14、15日  
摩氣神社神幸祭

11月初旬  
船岡の亥の子



1. **小出家家紋** 小出氏は、「亀甲に小」の紋と「丸に額」の紋の2種を用いています。現在残っているものでは、瓦や風呂敷、文箱、提灯などには「亀甲に小」の紋、葛籠、印籠、朱杯等には「丸に額」が用いられているようです。丸に額の紋は、小出家分家では、額の中に「二八」等の漢数字を入れたものが用いられています。



2. **三崇社碑** 三崇社は、小出氏草創から園部藩創立に功績のあった、小出秀政、吉政、吉親の3人を崇敬するため、秀政250回忌の嘉永6年(1853)に園部城内に建立されたものです。9代藩主英教が撰文し、10代藩主英尚が建てた碑が小出家屋敷に移されていたが、現在は園部公園内に移設されています。

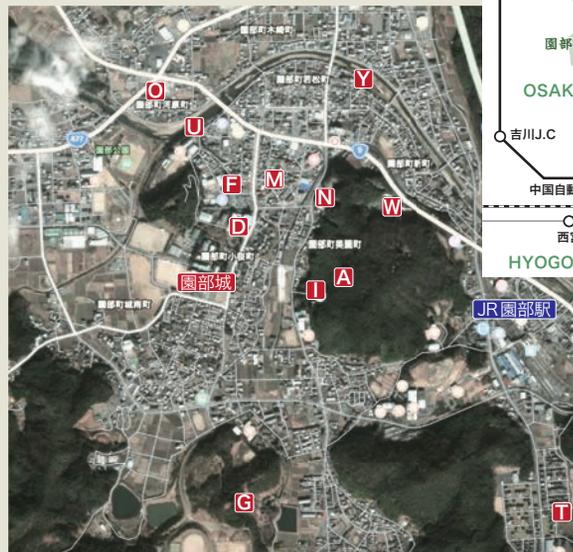


3. **摩氣神社** 船井一之宮の式内社で、代々の園部藩主の庇護を受けてきましたが、神仏混交の状況下摩氣神社の神宮寺胎金寺が、真言宗御室派仁和寺の末寺九品寺の末寺で、九品寺の社僧が宮司を勤めており、九品寺の影響下にありました。毎年10月に行われる船阪御旅所での神幸祭は、昔の格式を保って受け継がれています。



4. **九品寺** 真言宗御室派仁和寺末の九品寺は、白河天皇の御代より皇室の庇護を受け、七堂伽藍を持つ大寺院でしたが、火災によりほとんどが焼失しましたが、仁王門及び仁王像が重要文化財に指定されています。寺内には南丹市で唯一宮内庁管理である、白河天皇の皇子の覺行法親王の墓があり、小出公も度々寄進を行っています。

### map



### access

#### 園部城跡へは

- ・JR園部駅西口からバスで5分
- ・京都縦貫自動車道八木西ICから車で5分

